

令和5年度「地域と学校の連携・協働体制構築事業」取組目標・状況等公表

都道府県名	01 北海道
市区町村名	016373 芽室町
自治体区分	

●R5年度に本事業で重点的に取り組む課題に応じた目標等の設定様式

実施自治体名	課題の類型1	課題の類型2	課題の詳細	左記課題の解決のために本事業で取り組むこと	本事業で達成する目標(アウトカム)	目標の達成度を測る指標	現状の数値	単位	本年度の目標値	本年度の実績値	アウトカムの達成度に関する評価・分析(事業における成果、課題、改善点等)	目標等の公表先
016373 芽室町	②学校と地域の課題	学校支援ボランティアの確保・育成	ボランティアが増えないことで、学校からの支援要請に対し、ボランティアの調整が難しい。また、そのため、一部の人に依頼が偏っている。	地域学校協働活動推進員が町内会やPTA、各種団体を訪れ、活動の紹介やボランティア勧誘を行う。また、地域に学校について知ってもらう機会を増やし、学校への応援、ボランティア活動につなげていく。	地域全体で子どもを支えるという土壌ができ、ボランティア側からも学校に対し、活動提案が行われる。	学校支援ボランティアから提案を受けた学校数	0	校	1	1	・夏休み期間中に、教員・学校支援ボランティア・CS本部会議構成員によるワークショップを開催した。それぞれの立場から普段思っていることを発言してもらい、課題等の洗い出しを行った。 ・2学期以降の新たなボランティアとして、特に支援内容を定めない「ぶらぶらボランティア」による、生徒児童との給食交流や悩み相談、遊び相手などを行い、子どもを支える土壌づくりの効果が高まった。	https://www.memuro.net/administration/soshiki/kyouikuinakai/cs/community_school.html
016373 芽室町	①学校運営上の課題	教職員の時間外勤務の是正	地域学校協働活動について、教員の中でも理解度に差がある。地域との協働に苦慮している教員も多いように見受けられる。	すべての学校で地域学校協働活動推進員が学校運営協議会の委員を担い、学校の実情を知る。また、学校支援ボランティアが活動することで教員の負担軽減につながることを知ってもらう。地域学校協働活動推進員が学校と地域の調整に要した時間数、ボランティアの活動時間を200時間から250時間にする。	地域学校協働活動推進員が学校と地域の調整を行うことで、地域との協働が進み、教員の業務負担が軽減する。	学校からの要請により地域学校協働活動推進員が教員に代わって学校と地域の調整に要した時間数、また、学校支援ボランティアの活動時間数。	200	時間	250	346.5	・教員だけでは全ての生徒児童に指導しにくい「ミシン授業」「裁縫授業」「スケート授業」などに、多くのボランティアが関わり、教員の負担軽減に大きく寄与した。 ・また、ボランティアの活動時間が増えることにより、学校・児童生徒との交流が深まり、地域と学校の連携強化が図られた。	https://www.memuro.net/administration/soshiki/kyouikuinakai/cs/community_school.html